

会議記録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成30年度第2回高松市社会教育委員会議
開催日時	平成31年1月30日(水) 午前10時～11時30分
開催場所	高松市役所11階113会議室
議題	(1) 社会教育委員の職務について (2) 本市における社会教育の取組み (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	山神委員、葛城委員、岡委員、青木委員、上原委員、野上委員、近藤委員、平井委員(欠席委員1名)
傍聴者	0名(定員3人)
報道記者	0名
担当課及び連絡先	生涯学習課 839-2633

会議の経過及び結果

(1) 社会教育委員の職務について

社会教育委員の職務について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

社会教育分野における市の関係課職務分担表などが分かる資料が欲しい。

(事務局)

社会教育は幅広く、教育委員会だけでなく市長部局でも事業を行っている。取組みが分かりやすいものを考えたい。

(委員)

自治会長をしているが、社会教育に関して、市のどこに相談に行ったら良いか、また、どこの部署と連携すれば良いかわからない。

(2) 本市における社会教育の取組み

本市における社会教育の取組みについて、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

青少年、子ども、学校、生涯の示す対象範囲を教えてください。

(事務局)

生涯学習については、幼児から高齢者までである。学校は、小・中学校が中心となっている。少年は、19歳までであるが、市としての取組は、主には高校生より小・中学生になる。

(委員)

子どもは、幼児(幼稚園)も入っているのか。また、子どもに高校は入っていないのか。

会議の経過及び結果

(事務局)

幼稚園や高校も計画としては入っている。

(委員)

高松型学校運営協議会について、「学校・家庭・地域が協働で教育活動の支援に取り組む仕組みを設けている学校」の26～29年度の実績が1校とあるが、その学校はどういったことをしているのか。

(事務局)

実績1校とあるのは、新番丁小学校である。以前から、小学校では、学校評議員会や学校関係者評価委員会、中学校では、それらに加えて学校サポート委員会など、それぞれと連携が行われていたが、それらを一つに統合し、各団体の代表者や教職員、保護者等で組織しているのが高松型学校運営協議会である。今年度から全小・中学校で行うこととしているが、各学校や地域間での差があることが課題であるとともに、国のコミュニティスクールに近いものを目指していく必要がある。

(委員)

高松型学校運営協議会は30年度は全学校で行ったということだが、「学校・家庭・地域が協働で教育活動の支援に取り組む仕組みを設けている学校」の目標値が35年度20校とあるので、実績1校とは、高松型学校運営協議会のことではなく、別の事業か。

(事務局)

以前に立てた目標値では、20校としていたが、予定を早めて、30年度に高松型学校運営協議会を全学校に設置したということである。

(委員)

教育振興基本計画の目標値の見直しもあるのか。また、国の動向で、目標12「職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進」とあるが、なかなかスキルを身に付ける場を作るのは難しいと思うが、何かアイデアはあるのか。香川大学でも取り組んでいかなければならないと考えており、大学教育と社会教育に接点があるかもしれないので知りたい。

(事務局)

数値目標は、必要であれば見直しもありえると考えている。国の考え方としては、社会人が大学・専門学校等で学ぶ機会を増やしていくということを一番に掲げており、そこについては、高松市で触れていけるところではないのではないかと考えている。

(委員)

香川大学でプログラムができたときに、高松市として、その広報活動は可能か。

(事務局)

可能であると思う。

(委員)

子ども会の加入率について、子ども会の加入率は低下しているのに対し、目標として、高い数値を設定している。市は、強制加入を考えているのか。

コミュニティスクールについて、小学校と比べて、中学校の位置づけがすごく薄いと感じている。小学校の幅広い考え方が、中学校では狭まってきている。また、幼稚園も入ってくる

のか。

(事務局)

子ども会については、体験や交流をするのにとっても良い活動であり、教育委員会として、加入率は高い方がよいと考えている。しかし、市として、強制加入などは考えていない。地域によって、PTA と連携して、子ども会の加入率が高くなっているところもある。子ども会独自の方がいいのか、PTA と連携しての方が良いのかは地域それぞれの考え方になる。

(事務局)

小学校に比べて、中学校の活動における地域の連携・協力が薄いと感じられていることについて、課題として考えている一方で、地域の方々の協力で清掃活動に参加したり、吹奏楽部が老人会で演奏したりしている中学校もあるため、アピール不足であることも課題として考えている。小学校の方が、地域と近いこともあり、地域範囲が広がる中学校は、地域との繋がりが薄くなっている。幼稚園、高校についても同様に、薄くなっている。いずれは、小学校に近いものになるようにしたい。

(委員)

地域といっても、自治会なのか、コミュニティなのか、中学校区なのか色々ある。誰を、どこを対象にその施策をしているのかが曖昧になっている時がある。また、行政と地域が互いに事業の意味を理解をしているか。

PTA の役員の中に、健全育成と称して、子ども会の育成を兼ねていく、組織維持のための取り組みをしている地域があることは知っているが、私は、子ども会と PTA は全く別団体と考えている。子ども会の加入率が必ずしも本来の目標に合致しているかと言われればそうではないと思う。

計画の見直しについては、我々に関われるのか。

(事務局)

計画の見直しについて、社会教育の部分に関しては、この会で御意見をお伺いしたい。

地域の考え方だが、生涯学習課の事業の「子どもを中心にした地域交流事業」は、コミュニティ協議会ごとの範囲で、子ども会などの団体が実行委員会を作り、事業を実施している。

子ども会活動に関しては、小学校区単位なり、単位子ども会で取り組んでいる。

(委員)

社会教育でいう地域は複雑で様々である。地域が示す対象が何か分からない時がある。

(委員)

子ども会の加入率は横ばいからやや減少傾向にある。事業がマンネリ化したものになり、参加者が少なくなっている。子ども会としては、単位子ども会で活動してもらうのが良いと考えている。ただし、経済事情や親御さんの仕事の関係で子どもの面倒を見ることができない状況があり、単位子ども会活動が低下し、単位子ども会でできないことは校区子ども会で活動している。校区でできないものを市子連が行うようにしている。できるだけ、参加者に負担のないように、また、経費の節約も考えながら実施している。

(委員)

基本計画は手段で、目標は、高松市がどういう社会を作りたいかである。福祉の立場からいうと、社会が差別構造になっている中で、どうやって共生していけばよいのかが重要である。目的があって、計画があるため、高松市はどういう社会を作りたいかを明確で分かりやすい

言葉にしないといけない。

(事務局)

高松市の総合計画のまちづくりにおける教育部分の目標は、「心豊かで未来を築く人を育むまち」であり、施策として「社会を生き抜く力を育む教育の充実」がある。教育振興基本計画は分野別の計画として位置づけられている。また、高松市としては、地域共生社会の実現に取り組んでいる。

(委員)

市民憲章などはあるのか。市民が理想とする社会を語り合う、理念を構築するプロセスがあれば、より施策が具体的になり、良い方向に進むのではないか。

(3) その他

事務局から、教育委員会の行事について説明した。

他に意見等はなかったため、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。

以上